



たくましい村松っ子

10月の生活目標：はさみ歩き名人になろう

令和8年10月1日 第11号
文責：校長 日高 文博

「みんなちがって、みんないい」※の先にあるもの

今年も田んぼのあぜ道にヒガンバナが咲いています。葉もないのに茎がすっと伸びて鮮やかな花を咲かせる姿には、毎年ハッとさせられます。花が終わってから青々と葉を広げる不思議な生態に触れるたび、自然界の豊かな個性を感じます。30万種ある植物、6,000種を超える哺乳類。その一員である私たち人間も、誰一人として同じ人はいません。世界はもともと、豊かな「違い」で満ちあふれています。

しかし、これまでの学校は、その「違い」に対してどこか不器用だったのかもしれません。明治時代に始まった学校制度は、みんなで同じことを効率よく学ぶ「画一性」を大切にしてきました。社会全体にも「周りに合わせなければいけない」という目に見えない空気が流れ、生きづらさを感じてきた子どもたちも少なくなかったはず。学校を預かる者として、この歴史には真摯に向き合わなければならないと感じています。

いま、教室の風景は大きく変わりつつあります。私たちが目指しているのは、たった一つの正解を全員で覚えることではなく、一人ひとりの知恵を持ち寄って「納得できる答え」を一緒につくり上げることです。「〇〇さんの意見を聞いて、そんな考え方があったんだ！と驚いた」「自分では気づけなかったけれど、〇〇さんってすごいな」授業の中でそんな声が飛び交うとき、子どもたちの心には仲間へのリスパクトと、新しい視点に出会えた喜びが生まれています。

多様性を理解するとは、「自分と違う人がいる」と気づくこと。そして、「自分だって誰かにとっては特別な『違う存在』なんだ」と知ることです。その先にある一番大切なステップは、「違いを持ち寄って一緒に取り組み、みんなの学びに貢献する手応えを得ること」にあります。

性別や国籍といった目に見える違いだけでなく、胸の中にある様々な考え方や想い。その内面的な多様性を認め合うためにこそ、仲間と共に学ぶ意味があります。「みんなちがう。だからこそ、集まるのもっと面白い。」そんな安心感の中で、子どもたち一人ひとりが自分らしく輝ける学校を、これからも作っていきたいと思います。

※金子みすゞ著、矢崎節夫監修「私と小鳥と鈴と」「金子みすゞ童謡全集」フレーベル館、2022年より

校内清掃 ありがとうございます！

9月27日（日）に校内清掃を実施いたしました。あいにくの雨模様でしたが、PTA 役員の皆様、児童・保護者の皆様、教職員など多くの方々にご協力いただきました。普段は手の届かない高所やトイシ、階段、体育館などを隅々まで綺麗にさせていただき、校内が非常に明るくなりました。おかげさまで、子どもたちが毎日気持ちよく、安全に過ごせております。ご多忙の中、熱心に作業をしていただいた皆様に深く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

月曜朝の読み聞かせタイム

学校サポーターの図書ボランティア「よみよみの会」の皆様、月曜朝の読み聞かせを行っていただいています。おかげさまで、子どもたちは落ち着いて一週間のスタートを切ることができています。「よみよみの会」の皆様、2学期もよろしくお願いいたします。（写真は中高学年）



※画像は個人が特定されないように処理しています。